

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

I	スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II	マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III	スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV	日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V	スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 静岡県 】

学校名【 袋井市立笠原小学校 】

1 実践テーマ	I・II・ <b>III</b> ・IV・ <b>V</b> (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	4年 24人 6年 24人 計48人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 <b>①</b> 教科名 ( 総合的な学習の時間 ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	○オリパラ学習を通して、児童のオリンピック・パラリンピックへの関心や知識を高める。 ○パラリンピックを通して、児童の障がいのある人への理解を深めたり、障がい者と健常者の共生について考えたりできるようにする。
5 取組内容	



事前学習では、車いすバスケットの競技内容や、パラリンピックにおける活躍について調べた。

当日では以下の活動をした。

- 1 講話  
車いすバスケットについて
- 2 操作体験
- 3 車いすバスケット ゲーム
- 4 デモゲームの観戦
- 5 質疑応答

質疑応答では、「車いすバスケットをどれくらい練習したらそんなに早く動くことができるのか」「一番楽しい瞬間は何か」「いつも車いすで生活しているのか」等があがった。

## 6 主な成果

事後アンケートでは、パラリンピックについて興味が高まったと答えた児童の割合が、実施前より20%程度増えた。事後感想では、自分たちのような健常者をはるかに上回るパフォーマンスに驚き、パラリンピックのアスリートについてもっと調べたいという声があがった。

<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>本校は小規模校のため、全体の講話よりも体験的な活動を多く取り入れていただいた。実際の車いすバスケットのゲームに参加したすべての児童が体験できた。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>今回のように4人の選手が一度にきていただくには、ムーブメント以外の通常の学習では補助をする人手的にも、費用的にも難しい。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>車いすバスケットへの興味関心が高まったことをいかし、来年度も総合的な学習の時間で障がい者スポーツの事業について調べたり交流したりすることで、スポーツを通じた共生社会への理解へつなげたい。</p>